

### 第3次酒田市環境基本計画（案）に対する意見募集（パブリックコメント）の実施結果について

酒田市意見募集手続要綱第7条の規定に基づき、第3次酒田市環境基本計画（案）の策定に関して実施した意見募集の結果を次のとおり公表します。

- |   |                      |                        |
|---|----------------------|------------------------|
| 1 | 政策等の題名               | 第3次酒田市環境基本計画（案）        |
| 2 | 政策等の案の公表の日           | 令和7年11月7日（金）           |
| 3 | 意見募集期間               | 令和7年11月7日（金）～11月26日（火） |
| 4 | 意見提出者数及び意見数          | 2名（電子メール）／26件          |
| 5 | 提出意見の内容と意見に対する本市の考え方 |                        |

No.	箇所	意見等（原文）	本市の考え方
1	第2章 酒田市の環境を取り巻く状況 2 第2次環境基本計画の評価 (1) 第2次環境基本計画の目標達成状況 1「身近な環境」に関する目標 安心して快適な美しい地域づくり(P.12)	市に寄せられる苦情件数の減少ですが、苦情が半減したので達成とあります。苦情数の減少は評価しますが、苦情の内容について、解決した件数は何件ありますか。あるいは、解決しなかった件数は何件ありますか？その比率はどうなっていますか？苦情の内容で、今後の環境計画で取り上げるべき課題があれば、提示してください。	苦情相談については、市が申立者及び原因者の双方に聞き取りを行い、解決の糸口となる方法や手段の教示により対応しています。現在、継続しているケースはありません。なお、典型7公害については年々減少傾向にありますが、飼い主のいない猫や伴侶動物の飼養に関する件数は依然として多い状況にあります。本計画においても「基本目標【安心・快適社会】安心して快適に生活できるまち」において、取組の必要性について提示しています。
2	〃	また、環境基準の達成（生活の環境に好ましい環境の指標）のところでは、ここで大気については、概ね達成したとあります。大気で達成できなかった主な課題は何ですか？	大気環境の測定項目のうち光化学オキシダントについては、環境基準（1時間値0.06ppm以下）を上回る日が観測されたため、概ね達成となったものです。なお、同項目については環境基準を達成できなかったものの、屋外活動自粛を促す注意報発令基準（0.12ppm）は下回っています。光化学オキシダントの環境基準が達成できない主な要因は、越境汚染の影響や国内での原因物質（NOx、VOC）濃度の複雑な関係など、複数の要因が絡み合っているためと考えられます。
3	〃	大気の香りについて 「街が匂う」、都市の香りがするけど、東京のようなビル街はない酒田の不思議です。香（臭）害防止が山形県から出されていますが、酒田はまだですか。香りは個々人の責任において他人に迷惑をかけないというのが大方の方針ですが、酒田市の場合、大気そのものが香臭となって、街のあちこちに漂うのです。これはもはや香臭災害です。市に、香りに関する苦情はこれまで何件ありましたか。個々人の努力で、達成できない、香臭対策は第3次環境基本計画に取り上げるべき喫緊の優先課題と思います。	悪臭に関する苦情相談は、例年10件前後あり（令和6年度：7件）、その原因は、農畜産業や野焼きに起因するもので、いわゆる「香り」によるものは寄せられていません。今後の状況を踏まえ、検討していきたいと考えます。
4	第2章 酒田市の環境を取り巻く状況 2 第2次環境基本計画の評価 (2) 第2次環境基本計画「行動計画編」の達成状況 基本目標4「地球環境」に関する目標 二酸化炭素の発生が少ない生活(P.13)	未達成の施策として、低公害車仕様の推進とあります。この評価ですが、13年経過の軽自動車の税額を上げる施策が続いていますが、これは環境目標達成のために直ちに廃止すべきです。その理由は現在流通している年代車はすでに当時の環境基準を達成している低公害自動車であり、車検を通過しています。燃費も20km/L以上を達成しています。もともとこの税制は新車販売促進の懲罰的制度です。実際のCO2排出量を数値で表せばその影響は、全体として遞減してゆきます。昔の条例を見直して効果の薄い懲罰的な制度は廃止するなり、実際に有効な納得できる施策に改善を求めます。新車エコカー割引も収益は酒田を通り抜けて自動車産業に吸収され、酒田地域の経済発展とは無縁です。	公用車への低公害車使用の推進に関しては、単に導入すればよいということだけでなく、持続可能な生産消費形態を確保するために、市が率先して“つかう責任”を果たす観点からも重要であると考えます。エコカー（低公害車、グリーンエネルギーカー）の各種取組については、国等の動向を注視し、適宜対応していきたいと考えます。
5	第2章 酒田市の環境を取り巻く状況 2 第2次環境基本計画の評価 (7) 計画の検証、市民意識を踏まえた課題整理 (P.17)	省エネと節電の違いが曖昧です。強い見つければ、エコドライブおよび自動車と節電でしょうか。省エネルギーには熱エネルギーの省エネと、電気の省エネの二つの理解が必要です。17頁以降の（7）計画の検証、市民意識を踏まえた課題整理の箇所ですらに曖昧されたい。事業者アンケートの調査結果と考察を見ても、再生可能エネルギーについては設問によるのかもしれませんが、電気が主体で、熱エネルギーの省エネについて、もっと深掘りする必要があります。事業用の小型熱源の低炭素化、脱炭素化は、燃料構成と熱利用の高効率化と温度の多段的活用で無駄なく使う熱の省エネと組み合わせることで推進できます。これらの設備更新を促す県の制度を活用して、酒田の産業の低炭素化、脱炭素化の支援が求められます。	省エネは電力だけでなく石油やガスを含むエネルギー全般の効率的な利用を目指すのに対し、節電は電力の使用量を節約することに特化するものとなります。なお、本計画は施策の枠組みを示すもので、具体的な事業手法については踏み込んだ記載はしていません。具体的な対策などは市の事務事業や個別計画となる酒田市地球温暖化対策実行計画【事務事業編】及び【区域施策編】において検討していきたいと考えます。
6	第3章 計画の基本理念 1 目指す環境像(P.19)	(提案) 原点は先駆者井山武司の太陽の家パンプソーラーハウスの紹介。コラムなどで、酒田で始まった環境共生住宅の原点を紹介（例）光が丘松稔コミセン他	ご意見として承ります。

No.	箇所	意見等（原文）	本市の考え方
7	第4章 施策の展開 基本目標【脱炭素社会】地球環境に配慮した暮らしを实践するまち 施策の柱：地球温暖化対策 （1）現状と課題 ■省エネルギーについて （P.25）	（追加）減少の主因はコロナ禍の影響で経済が停滞縮小したことを忘れてはなりません。遅れた省エネ設備および高効率機器の更新支援対策はこれらが本番です。	いただいたご意見は関係部署と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。 なお、本計画においてもP.26にて、住宅のZEH化などの普及啓発や誘導策について検討することが重要と提示しています。
8	”	緩和と適応は同位の概念で、どちらかが上位で、他は低位という関係ではありません。 （1）地球温暖化（気候変動）緩和対策から ＜電気エネルギーと熱エネルギー＞ 省エネルギーについて多く記載されていますが、殆どが電気の省エネです。したがって省エネは電気だけでいいと、勘違いして勝手に理解されています。熱エネルギーの省エネについても、重視すべきです。具体的には、燃焼および蒸気など的高温排熱を低温まで多段的な活用を指します。市民学習の課題として、エネルギーの法則は必須です。コラムで啓発してください。	電気エネルギーと熱エネルギーは互いに交換し合って利用される密接不可分なものです。また、省エネについても限りある資源を有効活用し、地球温暖化防止につなげるために重要であり、電気やガス、ガソリンなど、あらゆるエネルギーが対象となります。本計画では、市民の皆様が省エネについて取り組んでいただくため、より身近で利用割合が大きい電気を中心に記載しております。熱エネルギーの記載については、今後検討していきたいと考えます。
9	第4章 施策の展開 基本目標【脱炭素社会】地球環境に配慮した暮らしを实践するまち 施策の柱：気候変動適応策 （P.30～40）	（3）気候変動（地球温暖化）適応対策について 適応対策は計画期間の5年間で達成できることは極僅かです。しかし将来に向けて、目的を実現する地道な施策が求められます。地域の環境特性と深く関わる課題です。家の改修・新築の例では、現在地の気候変動影響を予め知ることから始まります。ハザードマップ（津波、洪水）などで安全性を確認できる、相談窓口の開設です。具体的な推進は現在の移住・定住の支援分野の拡張などの対応が考えられます。適応は、居住地の移転、耕作地の放棄など、従来の概念を超える選択を含みます。	いただいたご意見は関係部署と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。
10	第4章 施策の展開 基本目標【脱炭素社会】地球環境に配慮した暮らしを实践するまち 施策の柱：気候変動適応策 対策を進めるべき分野の整理 ■酒田市における気候変動影響評価表(P.37)	酒田市における気候変動影響評価表から（抜けている重点課題） 野生鳥獣の影響。クマ、イノシシ、ニホンジカ、サル等が該当すると認識します。農業面に加え市街地への出没対策など、本計画でも取り上げるべきだと思います。	大型獣類の対策については、山形県第二種鳥獣管理計画において規定しており、市町村はそれに沿って対策を実施しています。本計画においても「基本目標【安心・快適社会】安心して快適に生活できるまち」において、市の取組にて提示しています。 なお、本計画は施策の枠組みを示すもので、具体的な事業手法については踏み込んだ記載はしていません。具体的な対策などは個別計画やガイドライン等で定めることとしています。
11	”	水産業では、回遊性魚介類についての評価がありますが、酒田市の場合は加えて沿岸の魚類、甲殻類、およびサケ、サクラマス、アユなど重要種があります。	「沿岸域・内水面漁場環境等」の項目を追加します。
12	”	この表に洪水はありますが、旱魃がありません。地域の水循環は重要な課題です。進行している松枯れを見ると、センチュウとカミキリムシ対策に依存しすぎです。松枯れはフェーン現象、メロンなど砂丘農業における過度の揚水の影響もあります。	本評価表の参考とする国の気候変動影響評価報告書では、「干ばつ」は食料需給や産業・経済活動のその他（海外影響）の小項目において、影響が記載されています。今回、本市において「重大性」「緊急性」「確信度」より大きい項目を選択し記載しているため、「干ばつ」は記載していません。いただいたご意見は関係部署と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。
13	”	内水氾濫・田んぼダム・市街地浸水：流域治水として田んぼダムが喧伝されています。酒田市ではどの程度有効ですか。上流の降雨と酒田市内の降雨、沿岸の高潮などの条件が重なればいつでも発生します。排水が間に合わなければ農業被害も起きます。また低標高の市街地は冠水します。下水道も雨水が流入する旧式な構造が残っているので、手の打ち様がありません。ポンプに頼る、電力多消費構造の都市インフラに頼る酒田市の難題は続きます。条件を加味してシミュレーションして評価できれば、いざという時に頼りになります。	「田んぼダム」の取組については、令和5年2月時点で、本市では2つの団体が実施（または検討）しています。まだ、取組を開始して日が浅いこともあり、その効果や有効性については検証されていません。しかしながら、先行している他県の事例では、冠水被害が減少したなども報告されています。いただいたご意見は関係部署と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。
14	第4章 施策の展開 基本目標【循環型社会】限りある資源を有効利用するまち （P.41）	<ゴミについての雑感> ○海洋ゴミ 1）漁業廃棄物 魚網を防獣ネットに利用している風景を車窓に見ますが、活用してみたい。産廃処理や再生ルートが整備されていると思いますが、知る方法がありません。	個別計画となる酒田市ごみ処理基本計画において検討していきたいと考えます。
15	”	2）漂着ゴミ・漂流ゴミ・堆積ゴミ 海岸漂着ゴミについてのみ、清掃ボランティアで現状を理解できますが、他のゴミはわかりません。酒田市の条例外のこれらのゴミの将来は不安です。	個別計画となる酒田市ごみ処理基本計画において検討したいと考えます。

No.	箇所	意見等（原文）	本市の考え方
16	〃	3) プラごみの処理 焼却処理がこれまでの方法ですが、炭化処理、油化処理（分留）など処理方法が増え、処理可能プラごみの範囲が広がり、リサイクルにつながると聞きます。自治体の一般廃棄物処理を超えるかも知れませんが、次世代ゴミ処理の展望は興味があります。	個別計画となる酒田市ごみ処理基本計画において検討したいと考えます。
17	〃	○海洋汚染 タイヤの老化防止材6PPDキノが紫外線の影響を受けて猛毒物質を生成すると既報がありますが、タイヤ粉塵の河川や海底への環境堆積、および毒性を含めて大きな環境負荷となります。酒田市の立ち位置は分かりませんが、山形県の河川海洋の要に立地する酒田市としては、現況を把握しつつ、発言すべきである、看過できない課題と思います。	個別計画となる酒田市ごみ処理基本計画において検討したいと考えます。
18	第4章 施策の展開 基本目標【自然共生社会】豊かな自然環境と人が共生するまち(P.52)	52頁 共感できる良い引用です。	ご評価いただきありがとうございます。
19	第4章 施策の展開 基本目標【自然共生社会】豊かな自然環境と人が共生するまち 施策と取組 施策の柱：生物多様性の保全 (1) 現状と課題 ■外来種について(P.57)	外来種について（追加） ワルナスビを加えてください。悠々の森、アイアイひらの第2駐車場付近にワルナスビを発見、駆除が追いつきません。	当該記載については、外来生物法に基づく特定外来生物（緊急対策外来種）の中から本市への定着状況を踏まえて優先的に掲載しています。ワルナスビなどの外来種については国等の対策に係る動向を踏まえ、ホームページ等での周知を検討していきたいと考えます。
20	〃	（意見）松枯れについて 酒田市内に限ってみても、松の枯れ木が目立つこの頃です。海岸の砂丘林は伐採と薬剤散布をしていますが、その費用対効果は疑問です。薬害の方が怖いです。市内の保存樹は寺社の境内林、その多くが松枯れで年々衰えています。保存樹木は150年生、伐採は1本100万円を超えます。私有地の枯松やその他の松枯れは放置林の状態です。さて悪役はマツノザイセンチュウと運び屋マツノマダラカミキリの仕業と言われ、これを退治することが、松林の保全につながると教わりました。しかしです。別な視点があるかも知れません。松林は先ずフェーン現象などで高温と乾燥の強いストレスを受けて樹勢が弱ります。松の根と土壌を媒介する微生物の菌根菌が変調をきたして栄養と水分が届かなくなります。弱ったマツにマツノマダラカミキリはマツノザイセンチュウを連れて移住します。こうして松枯れを拡げます。マツ枯れを助長するもう一つの要因があります。メロンやイチゴ、ナガイモ、ゴボウ、サツマイモ、ラッキョウなどの砂丘農業です。年間を通じて砂丘の地下水を多量にポンプで汲み上げて、地下水位を下げ、松林をさらに砂漠のように乾燥させます。松林の保全と砂丘農業の持続性をどのように折り合いをつけるか、気候変動の重要な適応課題です。マツノザイセンチュウは、マツを枯らす悪者ではなく、マツを分解する友達かも知れません。それを手伝うマツノマダラカミキリはヘルパーの役割です。松林の更新を担う生物の多様性です。	いただいたご意見は関係部署と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。
21	第4章 施策の展開 基本目標【安心・快適社会】安心して快適に住めるまち(P.61)	（提案）ここに、実践課題として「香害のないまちづくり」が入ると思います。	今後の苦情相談の状況を踏まえ、検討していきたいと考えます。（No.3関連）
22	〃	（提案）都市計画と税制支援で、スペースシェアリング（太陽熱と太陽光発電誘導政策） 酒田市のルールでは道路に面した出入口の左側の境となる塀の費用を各自が負担します。同様のことを太陽熱や太陽光発電で行えるよう、隣家に日陰を造らない、土地のレイアウトと家屋と屋根の構造を配慮してはいかかでしょうか。再生可能エネルギーを利用しやすい思いやりと助け合いのルールです。南側の日照を享受しつつ、北側は隣家に日照が届く屋根の形です。「酒田屋根」という独特の様式は新しい景観を生み出し、地域ブランドになるかも知れません。建坪率を下げますが、税制を優遇するなど、ソフトな支援が将来に結果を残します。都市計画のマスタープランの修正も可能とします。これも一つの省エネルギー高効率化の事案です。屋根の上に太陽光発電あるいは太陽熱利用設備を設置する義務が、多くの都市で採用されています。酒田もそうする時期はまもなく到来します。公益と私権の調整で空間の活用を円滑にする工夫の一つです。	いただいたご意見は関係部署と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。

No.	箇所	意見等（原文）	本市の考え方
23	"	<p>（提案）コミュニティキッチン（ト一屋閉店の訃報に接して）</p> <p>来年1月ト一屋住吉町店が閉店とのびつくりニュース。中町店はとくに閉店、千石町店も閉店した今、住吉町だけは残っていたのに残念です。今年千日町へ移住してきた方は、歩いて行けるト一屋住吉町店の存在を定住地の理由にしていました。賢い選択だと思います。お店には昔の中町店のお客様も見えます。何より毎日生き生きと活発なレジ対応は、ポケが改善する楽しい対応です。閉店したら地域はト一屋の難民で溢れます。車を持たない人が大勢います。設備の老朽化という理由ですが、省エネ機器、高効率空調機、冷蔵庫、キッチン設備など再生可能エネルギーの見本市ができる支援をお願いします。あるいは地域おこし協力隊を募集して、店舗再生事業をリードするなり、さまざまな支援が可能と思います。店を改修して、コミュニティスペースを併設しても良いでしょう。地域食堂の新しい形「コミュニティキッチン」です。安心して快適に住めるまちづくりの実践です。また「協働社会」みんなが協働して環境保全に取り組むまちづくりの拠点です。緊急社会実験を提案します。</p>	<p>いただいたご意見は関係部署と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
24	第4章 施策の展開 基本目標【協働社会】みんなが協働して環境保全に取り組むまち(P.67)	<p>（提案）第三次酒田市環境基本計画に寄せて</p> <p>酒田大火から50年、酒田は2050カーボンニュートラルにむかって新しい歩みを始めます。地域計画の実現の成否は、郷土愛です。太陽建築という井山武司が主唱した環境負荷の小さい住空間はこのシンボルにふさわしく愛に満ちています。大火復興50年のエネルギーを今再燃してバトンを受け取り「酒田スタイル2050」として推進する機会です。地域の人はもちろん、移住や観光も含めた拡がりの協働を目指します。人が集まり、資本も集まる新しいまちづくり「酒田スタイル2050」です。通常各種計画にタイトルはつけますが、情念は希薄です。郷土愛、復興力、どれも再生可能エネルギーの源泉としての「情念」があり「人」がいます。</p>	<p>いただいたご意見は関係部署と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
25	"	<p>（提案）環境学習の必須課題「エネルギー保存の法則」これだけは必要です。</p>	<p>いただいたご意見は関係部署と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
26	全般	<p>「環境基本計画を酒田市民の皆さんに知ってもらうためにはどうすればよいか。」この視点で考え、酒田市環境衛生課のHPの案を作成してみました。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。今後、ホームページ等の活用も含め、広報の方法について検討していきたいと考えます。</p>